

H18.8.22 設楽ダム魚類検討会 議事概要

日 時：平成18年8月22日(火) 14時00分～16時30分

議事概要：

表 H18.8.22 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	委員の主な意見	意見に対する回答
1.魚類検討会の経緯について	・過去の検討経緯について確認した。	・特になし	・特になし
2.平成18年の野外実験について	・平成18年度の野外実験の経過を報告し、課題に対する今後の対応案を提示した。	・今年度不成功の原因として、状態の良い雌を確保できなかったことがあげられる。これに対し、採捕時期、飼育施設、ホルモン剤の投与時期等について検討し、対応すること。また、水温及び水質の野外と水槽における違いについて、検討すること。	・事務局：飼育施設、ホルモン剤投与、水温管理等については、設楽ダムの目的と近い保全目的の人工繁殖が成功した事例があることから、その事例を参照し、計画の変更を行う。
		・親魚の採捕時期については、活性の低い時期に行う場合における調査精度の担保と、繁殖期に採捕する場合における現個体群に対する攪乱がトレードオフの関係となる。この点を踏まえ、慎重に時期を決定すること。	・事務局：採捕時期、採捕手法は、以下の方法とする。 個体へのストレスを軽減するため、繁殖期前(5月後半)に、事前採捕調査(標識採捕)を実施し、採捕対象淵に生息する個体数を把握する。調査に際しては、採捕効率の良い最大人数で採捕にあたる。 各淵の絶滅確率を算出し、繁殖期に確保可能な淵及び個体数を把握する。 繁殖期(7月)に、事前に決めた採捕淵で、確保個体数(成熟個体)のみ採捕する。
3.ハビタット解析について	・ハビタット解析手法について説明を行った。	・マイクロハビタット調査については、2m×2mメッシュは、支川等の小規模河川では粗すぎる可能性がある。調査努力量との兼ね合いになるが、河川によっては、1m×1mメッシュ程度を検討すること。 ・2m×2mで行い、解析等で良い結果が得られないようであれば、課題として今後取り組むべきである。	・事務局：基本は2m×2mメッシュで実施するが、セルデータはセルの中心ではなく、交点(四隅)で計測する。また、規模の小さい豊川上流域の地点は1m×1mで実施する。
		・ネコギギが確認された位置のポイントデータ(水深、流速等)を蓄積する調査では、ネコギギの行動(採餌、遊泳等)をしっかりと記録すること。	・事務局：ポイントデータの取得方法を検討する。
		・リーチハビタット解析については、ネコギギのいる、いないは年によっても変わるデータなので、その点を考慮して検討すること。 ・淵の調査で、同所的に確認される魚類のデータについて留意すること。	・事務局：年度間の違いをチェックし、大きく異なる場合は変数としてモデルに採用する。
		・ネコギギに発信器をつけて、生息場所を追跡する手法についても今後検討すると良いのではないかと。	・事務局：検討課題として今後の調査予定に追加する。

4.今後の調査・検討計画について	・ネコギギの保全に関する今後の調査計画案を提示した。	・PVAのパラメータは、他河川の事例を引用している。 ・今後、豊川の個体群でデータを採取した方が良い。調査労力も含めて検討すること。	・事務局:検討課題として今後の調査予定に追加する。
------------------	----------------------------	-----------------------------------------------------------------------	---------------------------